

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会学系】

1) 学習者の発表、および、発表に至るプロセスを踏まえて評価した。
2) 本授業、および、これまで受けてきた英語教育において得た知識・技能を、どのように本授業で活かしたか？について、学習者の発表とそれを参観していることを、「授業の感想」としてレポートを毎時間提出してもらい、それを授業への参加度と合わせて評価した。
3) 最終レポートとして、本授業で学んだことを、今後の学校現場でどのように活かしていくか？についての評価を行った。

・小レポートの提出や、議論への参加度、最終試験の結果を総合して評価を行った。

・小レポートの提出と、グループ課題への貢献度、最終発表(プレゼン)の相互評価を総合して評価を行った。

出席状況とレポートのできばえ。

シラバスに記載の通り、出席状況とレポートによって、総合的に評価した。
Se教育哲学演習については、例年に比べて受講者の欠席が多く、そのため低い評価が目立った。

一番目は、各回の個人レポートの発表を見て評価(ゼミなので欠席は基本的にあり得ない)。
二～四番目は、レポート審査(五回欠席でD)。
五番目は、グループ別レポート発表と変体仮名解読テストを50:50として判断する(五回欠席でD)。

筆記テストが基準である。テスト内容は授業で述べたことが中心のうえ、教科書・ノート・プリントの持ち込みは許可にしたので、ほとんどの学生はなんなく合格している。毎回提出のコメントシートの提出で加点している。

国文学講義AI→レポートの内容と毎回の授業で課した意見文の内容を総合して評価した。

国文学演習AⅡ→演習発表の態度とレポートの内容を総合して評価した。

記述式の回答で、16回講義の2回分の内容をまとめるテストをし、その記述内容から授業を聞いていたのか、内容を把握していたのか、判断し採点した。

どの授業でも、第一回目に紙のシラバスを配付している。そこに成績評価方法を記している。
「音声学・音韻論」では、出席(30%)と小テストなどのパフォーマンス(70%)で評価する。
「日本語史」では、
授業参加・議論への積極的な参加 20%
プレゼンテーション 30%
文法化に関するレポート 25%
まとめの試験 25% とした。

授業期間中に授業の内容を問う中間筆記試験をおこない、学期末に授業の内容を問う期末筆記試験をおこなう。中間試験の結果35%、期末試験の結果65%の合計で成績を出している。

発表の内容(35%)、授業中のコメント力(45%)、調査報告書(レポート)(20%)の審査から総合的に評価した。

通常の授業時の作業への取り組み状況や受講姿勢に、自ら積極的に学ぶ様子が見えるかどうかを見た。さらに、定期試験においては、授業で目標とした範囲の基礎的な知識が理解できているか、単なる暗記に止まらず、自身の言語活動のありようとして自らのことばで説明できているかを基準として成績評価を行った。

①演習発表(2回)の出来、②最終レポートの出来、③授業時の質問の回数や質、を総合的に踏まえて成績をつけた。

期末試験形式であったので、設問ごとに採点基準を設定して採点に臨んだ。採点基準の設定方法は、授業で扱ったテーマのうち、欠かせない情報であるか、書くのが望ましい情報か否かで、配点に差を設けた。

試験で和製漢文の史料をどれだけ読めるか、またそこから時代背景について言及できるか(そのためには、普段から自分で参考になるような文献を捜し、読んで、知見を深めておく必要がある。それはあらかじめ告知してある)を採点した。

講義で強調した論理的・批判的視点で文献を読み、その成果や問題点を自分の頭で考える(ような姿勢を見せる)ことができているかどうかを重視してレポートを採点した。

毎回の授業における学習活動(課題への取り組み方)や学習目標の達成度への評価を中心に行っている。書論講読においては、これら以外に、確認テストと、発表への取り組み方(発表資料作成への取り組み方も含む)も加味して総合的に評価した。

グループ発表が20%、二回のクイズが40%、ファイナルレポートが40%であるが、授業への積極的な参加(発言等)に10%加味している。

グループ発表が20%、二回のクイズが60%、ファイナルレポートが20%であるが、オプションとして他グループの発表に関するレポート10%を加味する。

・外国史概説 I は、授業で取り上げた内容を論述形式で説明させる試験を実施した。基礎的な項目の理解度に加え、学習した内容をきちんと表現できているかを判定している。これに平常点(受講姿勢)を加味して成績評価を出している。平均点は75点前後であり、免許科目として適当であると考えた。
・東洋史特論はレポートの提出を課した。採点項目は(1)日本語の文章表現、(2)内容の理解度、(3)調査・参照した範囲、(4)独自の考察、の4点であり(90%)、これに受講姿勢を10%加味して評価を出した。成績はSからCまで分かれた。
・演習・講読では、授業での課題の報告内容、他の報告への質問や討論への参加、最終課題の提出、の3つから採点を行った。受講生はおおむね積極的に学習に取り組んでおり、成績評価は比較的高い結果となった。

日々の課題、小テスト、最終レポート等を総合して結果を出しました。

・普段の授業へのとりくみ(出席を含む)
・グループ報告(ディベート)においてどこまで課題について調査し、考察しているか。
・期末レポートでは、授業の基本テーマである「法の支配・法治主義」について、ディベートの課題としてとりあげた問題に引き付けて、具体的、客観的、かつ、法的に考察されているかを評価した。

ふだんの授業態度等についての平常点と、期末のレポートの評価によって、成績を出した。

3503111 S 国文学講義B I においては、基礎的な知識と論述の力の育成を目指したので、半期の間に三回の試験(論述)を設定し、出題内容を事前に提示して準備の時間を与えたり、書き方についての基本が身に付くように論述のルールを提示しておいた。したがって、事前に公開した評価基準に基づいて、答案を評価した。4503204 S 国文学演習E II・2501061 S 国文学演習A IIについては、発表の出来と授業参加度(意見・質問の回数、出欠席)の合算によって評価することを最初に示した。発表については四項目の評価の観点をあらかじめ示し、それに基づいて点数化した。

授業で話した内容の理解度と、授業外での努力や授業における表現力をもとに成績を算出した。

授業での活動への取り組み、発表、レポート、授業態度、出欠等を総合的に評価している。

2413631心理アセスメント講義:毎回のレポート発表
2413681心理教育統計学実習:最終レポート課題

出席と授業参加度30%、中間テスト20%、発表担当20%、質疑応答参加10%、レポート20%の配分で評価した。

発表について(23%)、試験(77%)で評価をした。学生の多くはS、A評価であったが、一部B、C評価がみられた。

打合せの状況、発表内容、授業における積極性、レポート内容などを踏まえて、成績評価を行っている。

演習では期末の筆記試験(60%)、授業への参加姿勢(10%)、発表内容(30%)で評価。
講義では期末の筆記試験(80%)のほか、毎回の授業参加における積極性(20%)を加えて評価。
いずれもシラバスで明示したとおり。

各自の発表内容と、発表を経ての最終レポートが成績評価の大きな部分となり、他の発表者に対する発言なども加味して成績を決めた。

知識の定着の度合いと、発表への意欲や実際に出されたプリントの出来を加味している。
高校書道の免許に関わる科目である以上、高校書道 I の基礎レベル程度には知識量が必須である。
また、書道 I で出てくる書家についての知識も必須であると考えている。

①②ともに試験を実施し、これらの絶対評価で結果を出した。

成績評価の基準の内訳は、出席・授業態度15%、発表30%、期末レポート55%とした。
出席・授業態度については、出席回数と授業中の発言回数、ワークシートやグループ作業に取り組む姿勢を総合的に判断して点数をつけた。発表については、声の大きさ、速度、目線、発表内容、補足説明の有無やその内容を総合的に判断した。期末レポートについては、先行研究5つをふまえたうえで、具体的な用例にも目配りをしながら論理的に自分の意見を示せているかどうかに着目して評価を行った。先行研究の引用方法に問題がある者(出典を明確にしていない、先行研究と自分の見解の線引きがあいまいである)については、低い評価とした。

概説はテストと出席、演習はテストと出席に加えレポートも課し、それらを総合して成績を出した。テストだけで評価を行わなかった。

学期末にレポートを提出させた。

単に授業で教えたことを理解しているかどうかを確認するだけでなく、授業で得た知識を前提に、自ら問題設定を行い、現代の問題を考えようとしているか、を基準に評価を行った。

また、論理的な文章を構成できているかどうか(論拠が示されているかどうか、一貫性があるか、問題提起に対しそれに応じた回答が示せているかどうか、等)を基準に評価を行った。

そして、各回の授業で書かせたコメントの内容も、評価対象に加えた。

原書講読を中心とする少人数の演習科目については、授業までの準備と授業中の積極性を評価している。レジュメ作成を義務づける場合は、担当時に無断で欠席した場合は単位認定をしない、など事前に責任感をもって取り組むように強調して伝えている。人数の多い授業の場合は、公平性が担保できるように留意しつつ、複数回のテストを実施して、成績評価をするようにしている。

毎回授業終了後のレポート(5点満点×15回=75点満点)と定期テスト(25点満点)で評価した。

本講義の評価は、最終レポート(90%)と小レポート(5%)、小テスト(5%)の結果によって評価した。その際、評価は講義内容の水準に達しているものをBとし、その水準に達していないものの、地誌の理解及び地誌レポートとして最低限の水準を満たしているものをCとした。Aは講義内容の水準を十分に達し、その水準を超えようとしているもの、Sは講義内容を超えているものとした。